

## QRコードの生みの親

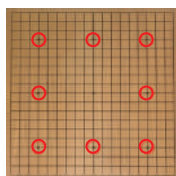
はらまさひろ  
**原 昌宏** さん

QRコードはどういった経緯で誕生し、ここまで普及したのか。開発から普及までその中心で奔走し、現在もその応用に取り組んでいる原さんにお話を聞きました。

## プロフィール

1957年東京生まれ。1980年㈱デンソー入社。バーコードリーダーなどの開発を経て、1994年にQRコードを開発。現在は㈱デンソーウェーブで主席技師として活躍中。

「QRコードを作ろうと思ったきっかけは何ですか。」  
元々は自動車部品工場での生産管理のためにバーコードリーダーを開発していましたが、しかし、バーコードは格納できる情報量が少ないことや、工場という環境上、バーコードそのものが汚れやすく、読取間違いが起きやすいので、現場から改善してほしいという声が多くありました。そこで、バーコードに取って代わる、読み取りやすく間違えにくいコードを作ろうと考え始めたのがきっかけです。



「どういった過程でQRコードは誕生しましたか。」  
当初は私を含めて2人で開発を始め、途中で4人に増えましたが、開発に多くのお金は使えなかったため、とにかくアイデアで勝負する必要がありました。特に「簡単に早く確実に読み取りできる」ということを実現させるのになら苦労して知恵を絞っていました。当時は印刷の精度が高くない、ちよつとしたコードのゆがみなどで読み取れなくなってしまうことが最大の懸念でした。

「普及するまでに大変だったことはありますか。」  
完成してからには事業展開に苦労しました。当時は自らQRコードのプレゼンやPRのために県内だけでなく、週に数回は東京・大阪などを行き来していました。それまでは営業活動の経験が少なかったため大変でしたが、プレゼンの評判が良く、事業を進めていくことができました。

「今後QRコードを使って進みたいことはありますか。」  
現状のQRコードには文字情報しか格納できませんが、今後は画像なども格納できればと考えています。例えば自分のレントゲン写真を格納することで、緊急時にもすぐに医療情報を獲得できるようにになります。そういった情報を格納する上では、セキュリティ面での強化も必要になりますので、電子認証などにもより力を入れていきたいです。



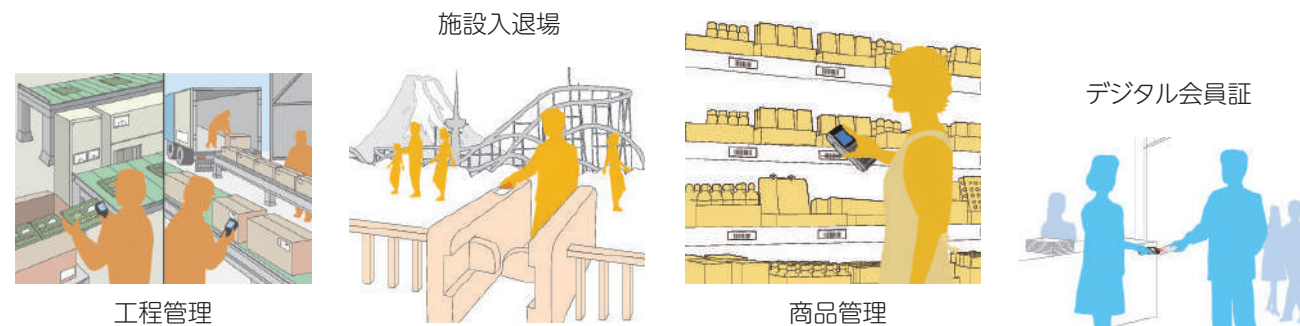
刈谷で誕生！

# 身近な存在 QRコード

問 広報広聴課 (☎62-1001)

普段からよく目にするQRコード。世界中で利用されている便利な技術ですが、実は刈谷の企業が開発したものだということはご存じでしょうか。  
㈱デンソーの応用機器技術部門（現㈱デンソーウェーブ）が、「もっとバーコードの読み取りを速くできないか」という現場の声を基に、大容量の情報を扱うことができ、どんな環境でも素早く正確に読み取ることができるコードを開発しました。

近年では、電子決済や電子チケットなど多様なシーンで活躍し、市民だよりでも多く利用されています。そんなQRコードを詳しく見ていきましょう。



## QRコードの秘密 ～バーコードと比較～

### 大容量の情報を小さなコードに表現

QRコード登場以前からあるバーコードと比べると、**横と縦両方に情報を持つことができる**ので、バーコードの約350倍の情報を持つことができます。さらに、数字だけでなく英字・漢字・カナ・記号などさまざまな文字データに対応可能。ウェブサイトのURLなどをQRコードに格納することで、読み取るだけでサイトにアクセスすることができます。

### どの方向からも高速で読み取りが可能

読み取りの際に向きを合わせる必要のあるバーコードと比べ、3つの「**切り出しシンボル**」によりコードを360度どの方向からでも即座に認識し、読み取ることができます。

### 汚れ・破損に強い

コードの一部が欠損しても、自身でデータを復元する「**誤り訂正機能**」で、多少の汚れや破損であれば問題なく読み取ることができます。  
※汚れ・破損の状況によっては復元できない場合があります。



この程度の破損なら大丈夫。読み取ってみてください。  
※市HPにつながります。

